（一日夕刊）

休刊　大祭日　第一　第三日曜

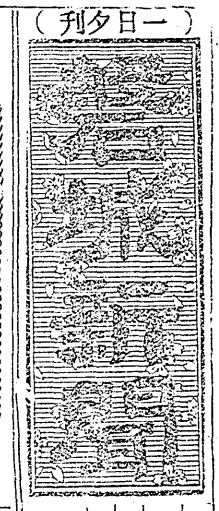
定價　一ケ月　二十錢　郵税　六十錢　十五錢

廣告料　並行六十錢　指定廿錢　增

福島縣平町田町十六番地　磐城新聞社

印刷兼發行人　鹽澤　鶴　輔

發行所　磐城新聞社　電話五六四番



# 夏井の清流を訪れて

小木生

生徒居ぬこの學びやの校庭ゆ回みしボールはやけてあつけき

校庭の樹々わたる風から〳〵と青葉をめぐり音々つる聞く

陽の透らぬ木の下かげに友とわれ勞しと云ふてしばし休みぬ

木かげにて歌つくりつゝ友待つも待つ友は來ぬさびしきものよ

夕立はすぎ去り行きて庭の樹々青葉の光りみどりさしみゆ

湯わけりと面おからめつ吾につぐ湯女のエプロン白く明るし

隣屋は餅屋なるらし朝起きのわか耳にきくかろききね音

三輪車の子に餅わかちニッコリと笑ひて行けり兄らしき人

肉入のふたにわが顔うつしみて夏まけせるをつゝび思へり

つゆ程の過ちなりと思へども心とがめて起き居さみしき

元氣なき友は今年も夏まけをせしかとわれはひそかに思へり

夕陽に映ゑて光れる川端の柳に牡馬草はみて見ゆ

朝便の着きてざわめく事務室に默々ペンをわれ走らせてゐし

もの起らぬ心になりてわがくれば行く空星の打ちるゝ音ゆ

暮れ近き町の家毎・電燈の光りまたゝき夕はせまれり

何につけ足ることのなきこの頃は自ら洩らすあれためいき

居るうちは何も思はぬわれなれど友去るときくことにさびしき

朝露は脚氣によきと教へられ今朝よりわれは朝露ふまむ

畑にたくたき火の煙り水色に似てゆら〳〵と立のぼりみゆ

サドルふむ足しげければわがのれる自轉車は走る風の吹く中

やはらかきつゝ木にからみのびて行くさゝげはいとも可愛ゆかりけむ

目をつぶり道歩まむと思ほいど二三歩にして目をひらくおかしさ

田の面を渡れる風のるやかにてサワ〳〵としげく稻のなるかも

歩みとめ活動のビラ見入る子の手さげがはだいく〳〵のいろ

明日の吉凶……蕃月新月　六月八日　曆八曆二日

◎一白の人　信用もまし金運も來る日なれど失物は注意

◎二黑の人　芳ゝ實もある日文學上に關する事尤もよし

◎三碧の人　何事も手堅く守りて慣ぬ事に手を出す勿れ

◎四綠の人　心せざれば禍ひ足元より出べし衛生に注意

◎五黃の人　正路をふんで進めば滿々と發展し行くべし

◎六白の人　必ず晴々となり活氣にみつる幸運日たるべし

◎七赤の人　運氣强きやうに見へて却て弱し進むは大凶

◎八白の人　これまで滯り居たる難事どけさるべき日

◎九紫の人　内にあれば無事なれど外に出てはイ利多し

## 講談

# 赤鞘安兵衛

東京　桃川燕二演

村田月光書

（十三）

……「私が一人で行くのだ」云ふ通り父は御勘當の身の上、たゞい樣のお許しの出ぬ中は門内に入ることが出來ぬ、此の手紙を御覽になつて參つてならぬと仰しやればお詫びの叶はぬのだし、兎も角も是れ參れと仰せがあれば御勘當御免になるのだ、善光寺街道で厚いた惡ぐみを下すつた位だ、大概に詫びは叶はうと存ずる、是れを持つて參れ……」と言渡します……私はお父上と一諸にたゞい樣のところへ參るつもりでありました、萬一私が此の手紙を以て參つたならばお父上は何處かへ行つて終ふのではありませんか」……「イヤ左樣なことはない、是れ控えて御挨拶を待ち居る」……「何うか、そう云はずに私と一緒に行つてお呉れなさいまし」……「扨て〳〵分らぬことを申す奴だ」……「扨て〳〵分らぬことを申す奴だ」……「扨て〳〵分らぬことを申す奴だ

# 三井炭礦會社で聲明書發表

## 從業員の解雇に就き天災地變の爲めだと

石城郡磐崎村藤原炭礦從業員一千百名を感泣せしめた從業員解傭については會社側では左の聲明をなした

當礦山は不況を重ねながら諸君の協力を俟つて今日迄事業を繼續して來ました。尚今後も多少の損失を忍んでも繼續する覚悟でありました。然るに礦山は今度不時の天災に遇ひまして到底事業を續けることが不可能となり休山せなければならぬことに相成りました。右の樣な次第で甚だ遺憾に堪へない次第でありますが此際皆樣に退職して戴かねばならなくなりました。就きましては退職手當其の他の諸給與に付左記の通り取計ひますから御承知の程を願ひます、其間に誤解や問題を生ぜざる樣一言申し上げて置きます。

（記）

一、解雇者に對する退職手當は勞働者法の規定に依る

一、退職手當の金額は支給しなくとも宜敷い方針になつて居ります、然しながらこの不景氣の折柄皆樣の前途を思ひ斯樣の取扱ひを爲す事に關係ない事でありますそして今回の樣な天災による場合は退職手當の全額を